

学校法人 明照学園

# 明照幼稚園

令和5年度入園向け



人生を楽しみ、主体的に社会を作る子どもを育てる

この配付資料をス  
マホなどご覧い  
ただけます

〒112-0002

文京区小石川4-12-8

電話 (3811) 1306

URL <https://www.meisho.ac.jp>

明照幼稚園って、どんなところ？どんなことを考え、子どもを育てているの？幼稚園の生活は、どのような流れ？大切にしている事は何か？…私達、明照幼稚園の”想い”と”生活の様子”をご紹介します。



## 幼稚園の歴史

なぜ、歴史を大切にするのか～幼稚園の原点

## 教育目標

目指す「子ども」像…そして「人間」としての姿

## 園の環境

子どもを育む自然・環境・そしてスタッフ

## 保育形態と内容

教育目標を達成するための構成

## 「遊び」の捉え方

子ども時代＝遊びの時代、という考え方

## 1日の生活

幼稚園で過ごす、子どもの1日

## 様々な行事

なぜ行事を行うのか。行事に現れる心

## お弁当・課外・講演会

正課をフォローする活動

## 子育て、一緒に…

未就園児活動と子育て支援

## 広報・保護者連携

保護者にとっての幼稚園

## 幼稚園の歴史

歴史とは、幼稚園の「原点」です。関東大震災を経て創立された明照幼稚園は、本年で98年を迎えました。その出発点は、「お寺として社会にどのように貢献できるか」という大きな願いです。



「歴史」はなぜ大切なのでしょうか？それは、一言でいえば、「**原点にたちかえる**」ことができるからです。仕事でも子育てでも、何かに迷ったり見失った時、立ちかえられる原点があれば、それを見据えて進んでいくことができるからです。

初めてわが子に出会い、親となった、「あの日」の感動を思い出すことは、誰もができませんはずです。そして、そのことで日々の（ときに思い通りにならない）子育てを、また新たな気持ちで続けていけるのではないのでしょうか。

明照幼稚園は、大正13年4月に開園しました。前年の関東大震災（場所によっては子どもの3分の1が亡くなったそうです）を越えた時、創立者の光圓寺住職が、「これからの社会を作っていくにあたり、お寺ができる社会貢献

は幼稚園を行うことである」と考え、明照幼稚園は生まれました。

その後、戦争で再び東京が焼け野原になりましたが、この時も「たくましく未来を作っていける子どもを育てなければならぬ」と、多くの方々の協力を得て幼稚園は復興されました。

当初は光圓寺付属の幼稚園でしたが、現在では学校法人立となり、地域の多くの方々に支えられて今日に至っています。

また、子ども達の住環境の変化に対応すべく、近年では「ヤッホー」の整備や園庭の拡充など、施設の整備にも力を入れています。

長い伝統を誇るだけでなく、常に「**子どもの成長ために、今必要なことを**」と、時代にあった教育内容・方法を取り入れています。

## 教育目標・園の環境

子どもの成長は、常に全人的です。知育・徳育・体育はその3つの側面です。そして、それをささえる「根っこ」を大切にします。園の環境（時間・空間・人間）は豊かであること・暖かいものであることを心がけています。



明照幼稚園では、目指す子どもの姿として、「**知育・徳育・体育のバランスある成長をする子ども**」をあげてきました。これは日本の教育の伝統的な考え方で、子どもの全人的成長を、3つの側面から見たいこうというものです。

そして、さらに子どもの内面に備えているものを注意深く見ることで、3つの要素があることに思い至りました。

**「周りの人たちに信頼と愛情を持つ（横の広がり）」**、  
**「日本の文化・歴史に根っこを持つ（縦のつながり）」**、  
**「やってみたい！できるようになりたい！というエネルギーを持つ」**。これらは近年注目される「非認知的能力」でもあります。

自分の周りとしっかりした関係を持ち、エネルギーを持つ子どもが、先に挙げた姿をもって現れると考えています。そして、それが幼稚園の究極の目的＝人生を楽しみ、

主体的に社会を作る子どもになっていくと考えています。

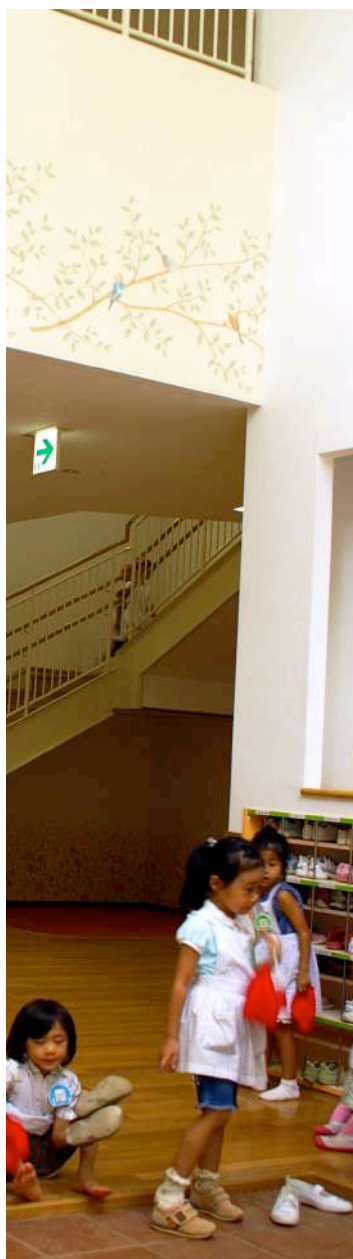
幼稚園ではそのために、様々な環境を整えています。令和4年度の在園者は約120名。年少組は2クラスに編成されています。敷地は、約2,500㎡あり、お寺のシンボルである銀杏をはじめ、桜や楓、四季折々の花が目を楽しませ、池には鯉や金魚、メダカや水生昆虫がいます。セミやトンボ、ダンゴムシに至るまで、植物相・生物相ともにとても豊かです。

人的環境としては、園長・副園長はじめ主事・教諭11名・保育助手2名がおり、それぞれ責任感と個性・課題意識を持って「子どもの成長のために何ができるか」と日々考えています。

園の規模とも相まって、子どももおとな全員の顔と名前を知っているような、暖かい環境になっています。

## 保育の形態と特色ある内容

明照幼稚園では、一斉保育と自由遊びの時間を、車の両輪のように大切なもの、と捉えています。両方が揃うことで、豊かな成長が期待できるのです。「いまの時代に、ここに幼稚園があること」の意味を考え、願いと可能性を信じて日々の保育活動を行っています。



### 一斉保育

朝の会・歌・お絵かき・せいさく・運動・集いなどのカリキュラムを組み、バランスを重視した保育を行います。様々な分野にわたる活動を行いますので、最初は苦手なことも、繰り返すこと・友達と一緒にすることにより、興味を持って取り組んでいくことを期待しています。

### 自由遊びの時間

登園後のウォーミングアップに加え、1日のうちに必ず自由遊びの時間があります。自身の持つ様々な力を試み・発揮し、成長と新たな好奇心を得ます。友達との間に生まれる協力・挑戦・衝突・譲り合い・教え教わる経験など、およそ社会でであう様々なシーンに出会います。また、学年を超えた出会い・やりとりも見られます。

「教育目標」で述べた3つの側面は、どんな活動にも含まれています。「知育」は**器用に生活できる**子ども、「徳育」は**気持ちよく生活できる**子ども、「体育」は**安全に生活できる**子どもをイメージしていますが、どこか1面だけが伸びることではなく、子どもの成長の「現れ方」と捉えています。

後掲の「幼稚園の考える子どもの育ち」でも、具体的保育活動が、どのような理念や願いへ繋がっているかを示しました。

教職員も、園内研修会を通じて「子ども達が試行錯誤しながら育つ姿・学ぶ姿」を描き出し・共有して日々の保育にフィードバックすることで、常に「子どもにとってより良い環境を提供したい」と研鑽し続けています。

## 「遊び」の捉え方

「遊びとは何か」。遊びの大切さは何となく分かるものの、実はなかなか難しい問題です。「何をするから遊び、何だから遊びではない」という表層的な見方ではなく、「**遊びの時代という見方**」をすることが大切だと、明照幼稚園は考えています。



「幼児教育の父」と呼ばれる、ドイツ人フレーベルの時代から、「遊びは大切」と言われています。しかし、「遊び」とは何でしょうか？他の言葉と同じく、時代により、地域により、社会によって意味づけは異なります。

私たちも、子どもの育ちにとって「遊び」はとても大切なことと考えています。

大人には、対置される「仕事」という言葉があります。しかし、子どもは違います。**生活自体が「遊びである」という捉え方**をしています。勿論、大人同様の、ゲームで遊んだり、○○ランドへ行ったりという、「狭義の遊び」はあるでしょう。しかし、例えば幼稚園の大掃除で見られる子ども達の楽しそうな姿は仕事でしょうか、遊びでしょうか？俳句を詠んで、「松尾芭蕉！」と声を揃えるのは「お

勉強」でしょうか？私達は、「**遊び**」とは「**経験＝試行錯誤の中から学び取っていく過程**」という見方であると考えています。

必ずしも上手くいくとは限らない。一度言われてできるとも限らない。失敗してもいい。何かを学んでいる過程なのだから。そんな**大らかで暖かい、そしてねばり強い視線で子どもの生活を見ていく**ことを、私たちは「遊び」と捉えています。幼稚園は、「**集団生活ごっこ**」とさえ言えると思います。

人間は、いつも自分の過去の経験を参照して生きています。楽しいことにしても、そうでないことにしても、参照するに値する経験をたくさんしてほしい。それを保障するのが「**遊びという見方**」だと考えています。

## 幼稚園で見かける、様々なシーン

幼稚園では、毎日いろいろなドラマが生まれています。子ども達はその中で、様々な「成し遂げていく力」と価値観を積み上げていきます。家庭の延長ではなく、教育機関の中だからこそ見られる成長が、明照幼稚園にはたくさんあります。



年少組さんは、「同じ」ことを発見するのが大好きです。お弁当の「ウインナーが同じ!」、クレヨンの「緑が同じ!」、靴に「付いているキャラクターが同じ!!!」と、とても嬉しそうに表現してくれます。自分のものと他人のもの、それぞれを比べるという楽しさが、そこにはあるのですね。この「同じ・違う」という発見が、子ども達の観察力・周りに興味を持っていく原動力になっているに違いありません。

園庭やヤッホーの大型遊具。年長組さんは得意ですからスイスイ登っていきます。最初はそれを見上げるだけだった下の子たちも、徐々に挑戦するようになります。裸足になって足を使ったり、お母さんに手助けしてもらったり。よくしたもので、本人にとって無茶な高さまでは登りません。力ではなく、怖さや自信といった、気持ちの部分がとても大きいのですね。

何人もが一台のテーブルで作業する事は多くあります。材料が多い時には必然的に、自分のスペースを確保しつつ、友達と譲り合わなければなりません。つまり、社会性が自ずとついていくようになっているのです。

各学年、月ごとに変わる「お約束カード」。カードを掲げる先生を見る眼差しは、とても真剣です。毎日、様々な価値観を耳にし言葉にし、更に実際に経験することで、人間として大切な価値感を養います。

明照幼稚園を卒園した子は、「話せば分かる」という価値観を持ちます。挨拶から始まり、「言葉で表現する・それを受け取ってもらう」という経験を繰り返す中でこそ、その安心感と自信を持つことができるのでしょう。それを支えているのは、しっかりした価値観と「実際に成し遂げていく力」であることは言うまでもありません。

## 1日の生活

幼稚園は「社会生活の第1歩」と、よく言われます。多くの人たちが、それぞれの生活を調整して幼稚園に来るのですから、時刻・時間を守ることは大切です。幼稚園の基本保育時間は4時間ですが、延長（預かり）保育・外部連携の預かり保育も実施しています。



9:00～9:30	登園時間
～10:15	朝の自由遊び（ウォーミングアップ）
10:15～	朝の会・言葉の時間（15分）
朝の会終了～	主活動（一斉保育または自由遊び）
12:00ごろ	お弁当
昼食後	午後の自由遊び
14:00ごろ	降園（学年によって異なります）
放課後	園庭解放・預かり保育・課外教室

（行事開催日等は異なります）

水曜日は午前保育となり、お弁当・預かり保育はありません。

午前保育の日の時程は、上記と異なります。

月曜日に「お御堂参り」があります。週1回、体操があります。

園庭解放は、保護者の監督下に行われます。

## 預かり保育について

幼稚園では、放課後に「預かり保育」を行っています（年間で約150日）。全学年の子たちが、一緒に過ごします。申し込みの理由は問いませんが、一回につき800円の有料制です。また、子ども達の遊びの機会を増やすため「夏休み預かり保育」も行っています（15日程度）。また、近隣民間施設との連携による、上記以外の預かり保育もあります。※令和5年度より5時までの実施となります。それに伴い料金も変わります。



## 様々な行事

様々な行事は、共に作り上げる一体感を味わったり、通常環境では味わえない体験をさせてくれる機会です。歴史的に洗練された行事は、人々の様々な願いが形となって現れたものです。子どもの成長を願う行事の、何と多いことか。誕生日会もその一端を担います。



4月	花まつり
5月	子どもの日・母の日・春の遠足
6月	参観日・人形劇・めいしょうまつり
7月	七夕・夕涼み会（年長組）・夏季預り保育
10月	秋季大運動会・移動どうぶつ村
11月	お芋ほり遠足・参観日 おかいものごっこ
12月	おもちつき・成道会・講演会
2月	節分・お遊戯会
隔月	お誕生日会

行事の行われる月は、年度によって多少前後します。  
感染症予防のため、変更の可能性があります。

- 土曜日は、行事開催日以外は休園です。
- 遠足・園外保育については、保護者の方のお付き添いをお願いしております。
- 避難訓練が年に4回あります。
- 学期に1回、体操参観があります。
- 学期の始まり・終わりには午前保育期間があります。
- 上記の他にも、学年ごと等で行われる行事があります。
- よかったらHP内の「サイト内検索」もお試ください。

## お弁当・課外・不定期イベント

幼稚園では、お弁当を持参いただいています。健やかな体と共に、親の思いを感じ、感謝の気持ちも育てたいと考えております。また、課外活動は量的フォローアップと「磨きをかける」ことを意図し、厳選して週1回づつ行っています。



### お弁当

最近では幼稚園でも給食が散見されますが、逆に海外では「Bento」として注目されてもいます。「顔の見える食事」を通じ、子どもを大切に想う、親の気持ち・愛情が伝わります。子どもの体を作るのはもちろんのこと、その心・保護者との絆も豊かにしてくれるものです。

### 課外活動

#### ①ラックススポーツクラブ

正課の時間（月に1度、専門の先生にご指導いただいています）に比べ、より多くの量的積み重ねによって、体育を中心とした子どもの成長を促します。

#### ②デザイン教室「りねあ」

絵をはじめとする活動において、製作に留まらず「発想・構成・発表」を通じて、

デザインする力を育みます。

#### ③リトミック

年少児を対象とし、「音に合わせ、楽しむ中で体を動かす」活動です。楽器の練習ではなく、音楽とのよい付き合い方の素地になることを目指しています。

### 不定期イベント

NPO法人（図書館司書が中心）による「絵本の読み聞かせ会」が2ヶ月に一度行われています。また、「対話的絵画鑑賞会」（日本アート教育振興会）が不定期に開催される予定です。

また、感染症の状況によりませんが、夏休みには近隣学校の学生による「お店屋さんごっこ」、「子どもコンサート」などが開催されることがあります。

## 子育て、いっしょに…

幼稚園の目的は、子ども達の成長を保証する事です。育ちのより豊かな環境作りのために、2歳児の親子教室「たんぽぽぐみ」や、「子どもを育てる」お母さん方の支援として保護者向け「わかば」があります。また、満3歳児保育「ふたば」も始まっています。



### たんぽぽぐみ

平成9年度から行っている、2歳児の親子クラスです。子ども達が多くの人や素材と出会い、係わっていくことでダイナミックに成長してゆく姿を見ることが出来ます。幼稚園と共通の歌や手遊びも多く、翌年度の入園後も「知っているお友達・先生」が多くいることになり、全体として安心感の中で通えることを期待しています。明照幼稚園への入園を視野に入れている方が対象です。

### 子育て広場「わかば」

1～2歳児親子クラスと2歳児母子分離クラスの二本立てで活動しており、対象は幼稚園入園前の母子です。

「わかば」では"親子の絆作り"を応援します！

お母様が安心して楽しく集える場所を提供し、親子同士の繋がりを持てるようにお手伝い...主役はすべてのママとお子さんです。

お母様が笑顔溢れ、毎日自信を持って過ごせるように、子育ての知恵やヒントを学びましょう。

### 満3歳児保育「ふたば」

令和3年度よりスタートしました。クラス設定・参加要件が細かいので、詳しくはホームページを御覧ください。お誕生日月以降は「明照幼稚園入園」となります。

### PTA活動

幼稚園での生活がより充実した経験となるよう、様々な環境作りなどにお手伝いいただいております。活動を通じて保護者間の仲が深まる姿も見られます。

### 子育て相談

地域の教育センターやカウンセラーと連携し、子育ての情報提供や悩み相談の橋渡しも行います。また、園内での相談活動「すみれ」やカウンセラーの紹介も行います。

## 家庭と幼稚園との繋がり

「行ってらっしゃい」と手を振った後は、子ども達の幼稚園タイム。どんな経験をし、どんな気持ちでいるのか…。その成長の姿や予定、幼稚園が考えていること、ご協力いただきたいこと。日々の放課後、園庭で担任と話せる機会を設けたり、いろいろなメディアを使ってお伝えし・お伺いします。

## 学年だより・園だより

学年だよりでは、たんぽぽぐみから年長組まで、それぞれの学年ごとに日々の様子、行事予定や持ち物などが載ります。ふんだんに写真を用いた毎月の振り返りも、どうぞお楽しみに。

一方、園だよりでは、園長が考えていることや子育てに繋がる事柄をお伝えし、月の行事予定と共に、それらの行事の意義や、それを通して感じて欲しいこと等を載せています。

## ホームページ

幼稚園の基本的な紹介が載っています。また全体的ではありませんが、リアルタイムに園長が日々見つけたシーン、感じたり考えた事をブログに綴っています。また保護者の皆様にご協力戴いてアンケートを行い、子育ての知恵の交流に一役買いたいと思っています。



## 放課後等

放課後、子ども達にとっては園庭開放の時間ですが、大人達にとっては様々なお話をしたり、子どもの友達とも一緒に遊ぶ貴重な時間です。日々起きた事柄については、特にすぐお伝えすべき事については、少々お時間を頂戴することもあります。「大きく広げたい」事も、「小さく収めたい」ことも。ご家庭と幼稚園の連携～価値観と対応～が、子ども達の安定した成長を保障しています。

学校法人明照学園  
**明照幼稚園**

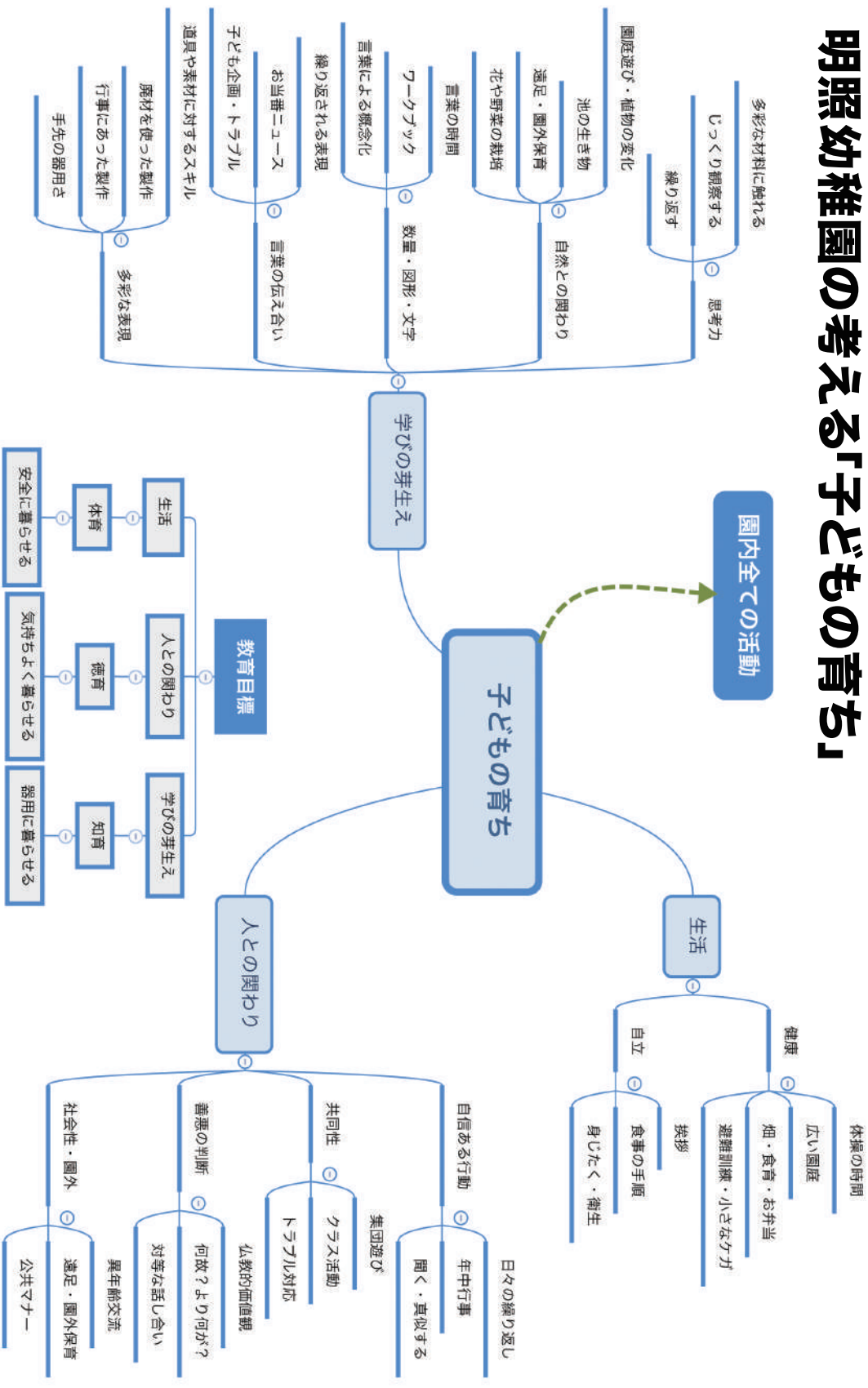
2022年6月  
**たんぽぽ交流**  
たんぽぽ  
今日は、  
り、ご対  
りました。

2022年6月  
**おまつり**  
めいし  
土曜日  
ていただ  
くなって

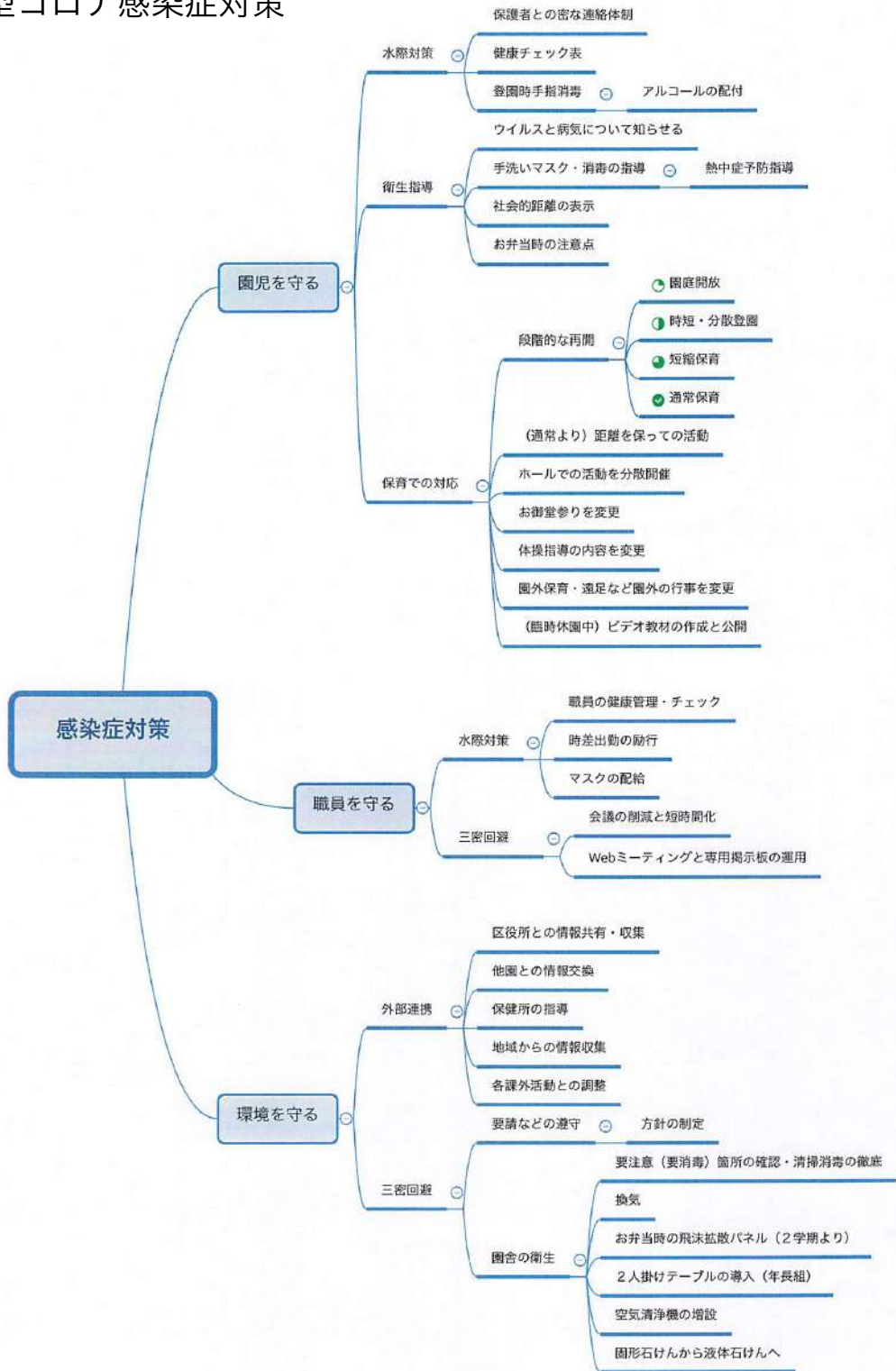
2022年6月  
**空の下  
地面の上**  
今週は、  
本当に感  
験者が多

2022年6月  
**くまお**

# 明照幼稚園の考える「子どもの育ち」



# 新型コロナ感染症対策



-おまけ-

先生方の話し合いで表現された、「こんな子どもを育てたい」というイメージの抜粋です。ほんの僅かですが、ご紹介します。

好奇心や探求心が旺盛で、かつ相手の気持ちを受け取り尊重できる子。失敗を恐れずチャレンジでき、失敗してもそこから学ぶことができる子を育てたい。

集団生活なので仲間意識を強く持ってほしい。お友達大好き！からお友達を大切にできる子に。挨拶がきちんとできる子に育ててほしいです。

痛い思いをした経験があるから、危険を見極められる。周りに目を向け観察し、自ら危険を回避できる子を育てたい。また自分で分からないことは、素直に周りに聞ける子を。

いろいろなものに対して愛情深い子に育てたいです。自然に対しても、人に対しても。子ども達の人懐こい所や、物を大切に撫でている場面を見ると嬉しくなります。

-MEMO-

今日は、ありがとうございました。

来年度に向けての説明会を考える中で、改めて「参加された方にとって、どんな会であれば意味があると言えるだろうか？」を考えました。「明照幼稚園のことが分かった」というのは思い当たるのですが、それは今の情報であり、3年後にお子さんごどのように育っているかは、現時点では分からない(未定)なのです。しかし、「こういう可能性がある幼稚園です」というのは例として示せるのではないかと、やや抽象的であっても、我々が考え、願っていることは伝えられるのではないかと思います。

実際のところ、3年後の姿は子ども達本人と、親御さんと、それから私たち幼稚園の、「縁」の結果として現れるものです。

「入園」はひとつの結果ですけれど、その先3年間の入り口でもあります。関わるみなさんの、よい思い出になりますように。



## 佐藤 良文 さとうりょうぶん

昭和43年生まれ(申年)、平成19年度より明照幼稚園園長。  
小さい頃は電車の車掌さんになりたかったです。中学時代にパソコンと出会い、高校時代にブラスバンドと出会い、大学では教育学部で日本中世史を勉強していました。平成5年に僧侶の資格をいただき、お寺の副住職・ボランティアで仏教テレフォン相談やインターネットお坊さん相談「hasunoha」にも参加しています。

子どもは社会人をトップに4名、みな可愛いのですが、ちょっと親離れされてきてしまい、寂しさを感じています。

趣味はダイビング・マッキントッシュ・写真・海水魚・車・バイクです。